

平成 29 年度（2017）アサンプション国際中学校高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す
～2030 年の社会に向け SDGs（持続可能な開発目標）を達成するための
「21 世紀型教育」を本格的始動

2 中期的目標

1. 教育力の向上 21 世紀型教育プログラムの実施・充実と教員研修の実践
2. 入学者の確保 広報戦略の強化
3. 教職員体制の検討と組織の見直し
4. 施設設備の充実

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会・第三者評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成 29 年 12 月 15 日実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○保護者 保護者アンケートは中 1～高 3 は配布 12 月 15 日、回収 12 月 22 日に実施した。 改革 1 年目を終えて、改革年度の入学者の保護者には高評価を得ているが、受験期に当たる保護者にとっては不安を感じていることも多いという事が分かった。その点から、「大学受験対応」においては満足度が低かった。しかし、全学年において、「教育理念教育」「教育理念周知」においては大変高い評価を得ており、それに伴い「学年クラス運営」が円滑に行われていることにも繋がっている。そこから、改革学年は本校への入学を親戚・知人に勧めるといった評価は半数以上を占めている。</p>	<p>(第 1 回：平成 29 年 5 月 10 日 (水)) コース選択が 2 つになり、男女共学になったことから、この改革による教育理念に協力ができることがあれば協力したい。評価委員会は評価のみにとどまらず、改革の PDCA に協力したい。</p> <p>(第 2 回：平成 29 年 6 月 21 日 (水)) 改革の中でも保護者の大半は我が子の「考えるキミ」への進化を望み、これを基に大学進学を望んでいる。改革のより良い流れの波及は大歓迎であり、生徒の力を最大限発揮するように指導して欲しい。</p> <p>(第 3 回：平成 29 年 9 月 13 日 (水)) 改革に伴い男子トイレの新設、それに伴う女子トイレの充実、男子・女子それぞれの更衣室の新設、PBL 型授業実施のための新教室の設置、ICT 教育環境充実のために全教室電子黒板の設置、LAN 環境の整備等の施設設備の充実に関して、どう展開されているか？説明の要望があり、学校側から詳細の説明があった。概ね、フル活動されているとのことであった。</p>

<p>○教員</p> <p>教員アンケートは配布 12 月 12 日、回収 12 月 22 日に実施した。</p> <p>このアンケート結果より、教職員一同「わかりやすい授業」を生徒に提供していることがわかり、「学習習慣指導」の徹底にも努めていることが分かった。また、「問題対応・教員相談」も充実していることから教員の団結力の強さもうかがえる。教職員が同じ目標に向いていることは、新教育改革の成功のカギである。また、教育力向上のための分掌・学年・教科を超えた連携、および、「家庭との連携」も行き届いていると評価が高かった。昨年度の課題であった新教育課程の具体的な研修・課題検討においては、円滑に進んできていると感じている教員が大半になってきていることもアンケート結果より分かった。今後、具体的な取組の部分に注力し、さらに新教育改革の実現を教職員一枚岩となって丁寧に進めていく必要がある。</p>	<p>(第 4 回：平成 29 年 11 月 15 日 (水))</p> <p>改革の先にある「大学入試改革」、「高大接続」等の情報を共有できる機会を生徒自身はもちろん保護者自身、評価委員にも学ぶ機会を設けるよう、要望が出された。</p> <p>(第 5 回：平成 29 年 12 月 13 日 (水))</p> <p>教育における生徒のモチベーションの向上を図るには学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」「世界の平和に貢献できる人の育成」に基づき「考えるキミ」すなわち「世界の平和に貢献できる人財の育成=21 世紀の社会で活躍できる人財」というメッセージを委員会としては共有していきたい。</p> <p>(第 6 回：平成 30 年 2 月 7 日 (水))</p> <p>改革、改革といっても学校教育の中では「授業」が最も重要視されるべきものである。これから、保護者アンケート、教員アンケートが実施されると思うが、特に「授業満足度」の分析を中心に教員側で共有していく必要がある。それとともに教員の授業に対する思いを生徒に伝えることによって生徒の意識にも変化を求めるべきである。「考えるキミ」の醸成論は時代の趨勢であるが、それを下支えする「知識」の育成も大切である。</p>
---	---

<p>第三者評価委員会からの意見</p> <p>[平成 30 年 6 月 19 日 開催]</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートは何人に対して行われたのか、その回収率は何%であったのか数字で明示するのがよいと思う。 ・PBL、ICT、イマージョン英語による科目など第三者に理解を等しくする意味で初回のみ（問題解決型教育）、（情報通信テクノロジー）、（英語での英、数、理科他授業科目）を記載するのがよい。 ・新しい改革に向けての積極的な取組姿勢が感じられた。これからも変化に対応しながら頑張ってください。 ・全人教育の推進の中で、社会のリーダーシップをとれる人材育成にチャレンジされている。一人一人の力を見る教育を進めてほしい。 ・改革目標、努力は評価できるが、良い結果を出すには、英語イマージョン科目のカリキュラムつくりと、それを守ったうえで教員が一丸となって授業を展開していく必要がある。その点での生徒、保護者、教員の不安を取り除き、中学、高校の連携をもっと密接にとり、中学で転校する生徒のないようにする必要がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目 標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
1 教育力の向上 2018 年度教育改革に向けた教育プログラム の準備と教員研修の実践	<p>(1) 改革の進捗状況の見直しを踏まえて、カリキュラムや年間行事予定の検討・決定</p>	<p>ア) 教育改革の見直しを行い、次年度に沿った新しいカリキュラムの検討・作成を行う。</p> <p>イ) 21 世紀型教育（英語イマージョン教育、PBL（課題解決）型授業、ICT）に結び付く授業・行事の選定・導入を行う。</p>	<p>ア) 英語イマージョン科目の実施、また新しく開設した探究科の実施を円滑に行う。（判定：○、△、×）</p> <p>イ) 21 世紀型教育の下記 3 項目に関する行事の選定・導入ができたかを評価指標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語イマージョン教育 ・PBL（課題解決）型授業 ・ICT <p>全てできた → ○ 一部できた → △ できなかった → ×</p>	<p>ア) 結果：○ 英語イマージョン科目は、ネイティブ教員と日本人教員のチームティーチングにより実施することができた。また、探究科は全学年で開設した。</p> <p>イ) 結果：○ イングリッシュキャンプ、エンカレッジプログラム、グローバルアクティビティなどの導入を実施した。さらに、短期留学制度のプログラムも実施した。また、保護者アンケートでは、国際交流の取り組みに関する項目で肯定的な評価が大変高く、今後も継続して本校の特色を生かした取り組みを実施する。</p> <p>イングリッシュ・グローバル両コースに、特徴的な教育プログラムが成功できたと思われる。一方で、来年度の教育活動を進めていく中で新たに様々な課題が出てくるのが予想されるので、一度決めたカリキュラムや行事であっても柔軟に対応する姿勢を持つべきであると考えている。</p>
	<p>(2) 教職員研修の実施（学院主催のものも含む）</p>	<p>ア) 次年度教育改革に伴う教員研修を行い、アサンプション国際の思考コードを確立への研修を実施し、教員の授業力向上を図る。（例：英語イマージョン、共学化、ICT、PBL（課題解決）型授業、等）</p>	<p>ア) 10 件前後の教員研修を実施する。（DO）</p> <p>10 件実施→○ 5 件前後実施→△ 0 件実施→×</p>	<p>ア) 結果：△ 下記の通り 8 件の研修を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①プロジェクトチーム研修 ②21 世紀型教育に関する研修 ③アクティブラーニング研修 ④人権教育に関する研修 ⑤共学に向けた研修 ⑥パワハラ研修 ⑦英語イマージョン教育研修 ⑧Classi 研修 <p>教育改革に伴う研修は意識向上と改革理解に有効。特に、イマージョン教育研修は、日本人教員と外国人教員の協働授業の在り方として有意義なものであった。</p> <p>次年度、目標通り実施できるよう年間研修スケジュールを組み、確実に実施できるよう努める。</p>

<p style="text-align: center;">2 入学者の確保 広報戦略の強化</p>	<p>(1) 中学校 50 名 高等学校 100 名 を目標とした広報戦略の強化</p>	<p>ア) 校内入試イベント個別のちらしを作成する</p> <p>イ) 校内入試イベントの内容精査を図る。</p> <p>ウ) 公立中訪問の回数を 4 回増やす。</p> <p>エ) 入試制度に思考型問題も取り入れる。</p>	<p>ア) 11 月プレテスト・入試説明会、12 月入試対策セミナーの 2 つのイベントチラシを作成する。(判定：○、△、×)</p> <p>イ) 事前のリハーサルを行い、内容の精査・改善をする。(判定：○、△、×)</p> <p>ウ) 公立中訪問の回数を 2 回から 4 回に増やす。(判定：○、△、×)</p> <p>エ) 英語型や思考力型の試験を導入する。また、帰国生入試の導入も行う。(判定：○、△、×)</p>	<p>ア) 結果：○ 予定していた 2 つのイベント用のチラシを作製した。</p> <p>イ) 結果：○ 事前のリハーサルを実施し、外部アドバイザー 2 名の先生から助言をいただき精査を行った。</p> <p>ウ) 結果：○ 全教員で対応したことにより公立中訪問の回数を予定通り 2 回から 4 回に増やした。</p> <p>エ) 結果：○ 中学生入試で「アピール入試」への名称変更や要項への詳細記載、英語型や思考力型の導入を行った。また、帰国生入試も実施した。</p> <p>その結果、2018 年度中学校は目標が達成された。58 名中、男子 25 名・女子 33 名であった。(女子の 33 名の内、外部 11 名+内部 22/33 名)。(昨年：外部 12 名+内部 18/41 名)、一昨年：外部 20 名+内部 25/47 名)。 高等学校も、目標が達成できた(118 名のうち、男子 59 名・女子 59 名と同数であった。外部 44 名+内部 35/44 名)。(昨年：外部 13 名+内部 32/45 名、一昨年：外部 13 名+内部 32/45 名)。来年度はさらなる、中学の入学者数を増やすための取り組みに力を注ぐ必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">3 2018 年度に向けての教職員体制の検討と組織の見直し</p>	<p>(1) 人材確保、組織・体制の見直し、新カリキュラムの整備</p>	<p>ア) 2018 年度教育改革に即した人材の確保や体制の見直しを行い、丁寧にかつ迅速に教育現場を整備する。</p> <p>イ) 2018 年度は、開設した 2 コースのさらに充実する体制・環境を整える。。</p>	<p>ア) ICT 推進委員会、探究科、イマージョンコーディネーター、教育アドバイザーの設置による機能の充実を図る。(判定：○、△、×)</p> <p>イ) 2018 年度から新たに開設した 2 コースの組織体制を見なしの必要な点は再検討し、整える。(判定：○、△、×)</p>	<p>ア) 結果：○ 計画通り ICT 推進委員会、探究科、イマージョンコーディネーター、教育アドバイザーの役割を明確にすることで、さらなる充実を図ることができた。</p> <p>イ) 結果：○ 2018 年度に 2 コース開設した。特にイングリッシュコースには、ネイティブ教員も担任についてもらい、常にイマージョンの環境を整えた。</p> <p>21 世紀型教育の柱となる英語イマージョン、PBL (課題解決) 型授業、ICT の確立ができた。また、これら 3 本の柱について各教科担当教員との活発な議論がイマージョンコーディネーターを交えて頻繁に行われ実施が現場担当レベルでも行われた。</p>

<p style="text-align: center;">4 2018 年度教育 改革に伴 う施設設 備の整備</p>	<p>(1) 施設設備の整備</p>	<p>ア) 2018 年度教育改革に伴い必要となる施設設備を検討し、整備を実施する。</p> <p>イ) 共学化に伴う学校空間の整備を実施する。</p>	<p>ア) 男子トイレ、多目的トイレ、更衣室、無線 LAN などの整備を行う。(判定：○、△、×)</p> <p>イ) 共学化を念頭に置いた学校内の死角を排除する。(判定：○、△、×)</p>	<p>ア) 結果：○ 左記の施設はすべて新年度までに整備の実施が予定通り行われた。</p> <p>イ) 結果：○ 先の施設はすべて新年後までに、死角を減らすため各教室等のドアに透明ガラスの小窓を設置した。</p> <p>法人と連携して最低限の準備はできたと思われるので、引き続き、来年度の教育活動を進めていく中で出てきた新たな課題について対応したい。保護者アンケートにおける学校の施設設備に関する整備管理の項目について肯定的な評価をいただいているが、一方であまり思わないという評価も少数派であるがある。今後も引き続き対応を行っていくこととする。</p>
---	--------------------	--	--	--